

祇園祭

原 帆奈美

(2020 年入学 4 期生)

私が紹介するのは「祇園祭」である。祇園祭とは、1000 年以上の歴史を持ち、7 月 1 日（吉符入）から 31 日（疫神社夏越祭）まで、1 ヶ月にわたって多彩な祭事が行われる八坂神社の祭礼である。7 月の京都は祇園祭一色といわれているが、京都出身ではない私は祭りで府全体が盛り上がる理由が分からなかった。私のように普通の祭りとの違いを理解していない人は多いと思うので、ここでは祇園祭について紹介できたら良いかと思う。



今からおよそ 1100 年前の貞観 11（869）年に、京洛で疫病が流行し、庶民の間に病人や死人が多数出た。そこで 66 本の矛を立て、洛中の男児が祇園社の神輿をのせ神泉苑（中京区御池通大宮）に送り、悪疫を封じ込む御霊会を行ったことがはじまりであると伝えられている。その後、祇園社の興隆と共に「祇園御霊

会」と呼ばれ、この名称が略されて祇園会と呼ばれるようになった。初めの頃は、疫病流行の時だけ不定期に行われていたが、天禄元（970）年からは、毎年 6 月 14 日に行われるようになった。保元、平治の乱（1160 年）で一旦絶え、その後室町時代に再興、足利将軍や婦人らが観覧したことが記録に残っている。

しかし、応仁、文明の乱で京都は焼け野原と化し、祇園会の興隆に頓挫をきたしたが、町衆の祇園会に対する熱情により大乱の 33 年ののち、明応 9（1500）年 6 月には再び山鉾 26 基が巡行したと伝えられている。これらが契機となり、山鉾は町衆の手によって創意がこらされ、内容と外観が共に豪華絢爛なものになった。

町衆の信仰と勢力は次第に大きくなり、天文 2（1533）年、延暦寺大衆の影響により、神輿渡御ができなくなると、「神事無之共、山鉾渡し度し」と申し出るほど町衆の山鉾存続への熱意が高まっていった。

鉾が今のような形になり、豪華な飾りをつけるようになったのは桃山時代から江戸時代にかけて貿易が起こり、町衆階級が勃興し、船来のゴブラン織りやペルシャ絨毯などが競って用いられるようになってからである。

このように、祇園祭は長い伝統があり、中断、再興を重ねて京都の歴史とともに歩んできたのである。

祇園祭の見どころは、中京、下京の各町に伝わる山鉾が四条通から河原町通等を巡行する「山鉾巡行」である。巡行する矛で最大のものは12トンにも達し、組み立て、巡行、解体には延べ180人もの人手が必要である。



山鉾の組み立ては山鉾建てと呼ばれ、各山鉾町で行われる。4本柱に貫や筋違で胴組を組み立てるが、各町によってこれらの位置や角度が異なるため、それぞれ独自のものを持っている。固定方法は、荒縄による縄絡みと呼ばれる伝統的な技法を行い、釘は一本も使わない。山鉾の組み立てが完了すると、鉾と山は祇園囃子を奏でながら、町内の試し曳きが始まる。山の中には、町内の人々も参加できるものもある。全33基の山鉾のうち29基は、重要有形民俗文化財にも指定されており、美しい絨毯、タペストリーなどで飾られている。船来のゴブラン織や西陣織などが用いられた山鉾もあり、巡行を見ていると次々に美術品が現れる。このことから、山鉾は「動く美術館」ともいわれている。山鉾行事は昭和54（1979）年、国の重要無形民俗文化財に指定されたほか、平成21（2009）年には国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されている。

祇園祭では子どもたちの活躍も欠かせない。神様の使いとされる長刀鉾の稚児は巡行当日に注連縄を太刀で切り落とす「注連縄切り」という大切な役割を担っている。このほか、「綾傘鉾稚児」や「久世駒形稚児」など大役を担っている。



日が暮れて駒形提灯に明かりが灯り、祇園囃子が流れる中で山や鉾を鑑賞できるのが「宵山」である。宵山は祇園祭のメインである山鉾巡行の3日前、前々日、前日の総称であり、いわば前夜祭のようなものである。前祭の宵山では夕方から歩行者天国になり、たくさんの露店がでて、賑やかなお祭りムードである。後祭の宵山は歩行者天国や露店はなく、お祭り本来の幻想的な雰囲気の中で散歩することができる。町会所には山鉾の御神体や懸装品が飾られ、子どもたちがわらべ唄を歌いながらちまきなどを販売する姿も見られる。他にも、「屏風祭」といわれる行事もあり、山鉾町の旧家では表の格子を外したりして、秘蔵の屏風などを飾り付けた座敷を開放する屏風飾りが行われる。

私は今まで露店が夜遅くまで出るお祭りという認識しかなかったが、色々と祇園祭について調べることで素晴らしいお祭りであるということが分かった。1000年以上も京都の人々が大切に引き継いでいるこの伝統を絶やしてはいけないと思う。露店しか興味がない若者も多いが、もっと若い人が山鉾や稚児、屏風飾りに注目し、祇園祭を楽しんでもらいたい。今年は3年ぶりに山鉾巡行や露店が開催されるので今回学んだ祇園祭の歴史を意識しながら参加したいと思う。



参考文献

京都観光オフィシャルサイト 京都観光 Navi 祇園祭

<https://ja.kyoto.travel/event/major/gion/>

公益財団法人祇園祭山鉾連合会

<http://www.gionmatsuri.or.jp>

京都の情報は、ざ・京都 祇園祭 宵山

<https://www.the-kyoto.jp/feature/events/gion/gion02/>

(閲覧日 2022/06/28)